



キハ35系相模線色



※写真はイメージです 実際の製品仕様と異なる場合があります

◆実車ガイド

- ・キハ35系は国鉄の一般形ディーゼルカーで1961年に登場しました
- ・キハ30形は両運転台車、キハ35形は片運転台車でトイレを装備した車両となっています
- ・片側3か所ある両開きのドアに、一部を除いてロングシートが配置された室内により通勤輸送に適した構造で、主に大都市圏の非電化路線を中心に運用されました
- ・車体の強度面から外吊り式のドアを採用したため、独特な側面を持った車両となり、ディーゼルカー特有の各形式を連結した状態でも目立つ存在となっていました
- ・キハ35系列で寒地向けに製造された車両は500番代に区分され、外観上は屋根上のベンチレーターが0番代は丸いグローブ形に対し500番代は角形のベンチレーターを載せていたのが特徴でした
- ・典型的な大都市圏非電化路線だった相模線にもキハ35系が運用されており、首都圏色だった車両も国鉄末期の1986年頃より地域色としてクリーム1号に青20号の帯を巻いた姿へと変わりました

【文責:トミーテック】

◆ここがポイント

POINT:1

各セットの各1両は屋根新規製作で角形ベンチレーターを載せた500番代で再現



POINT:2

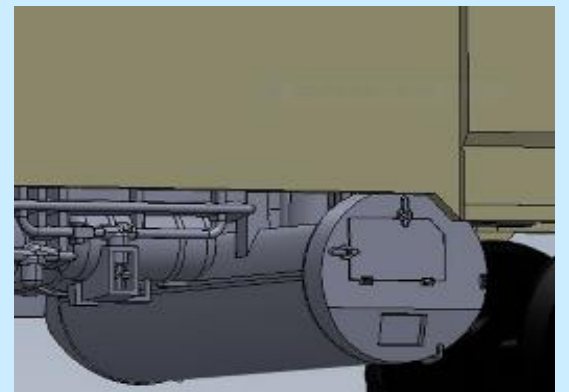
ヘッドライトは内側に段差がある2灯式シールドビームで、テールライトは外ハメ式の形状で新規に再現



※補強板有り設定の前面の青色は、付属の青色に塗装された補強板パーツを取付けての表現となります

POINT:3

キハ35-500形の水タンクは0番代より大型の水タンクを新規パーツで再現



各画像は試作、開発中のものです 実際の製品とは異なる場合があります

◆製品化特徴

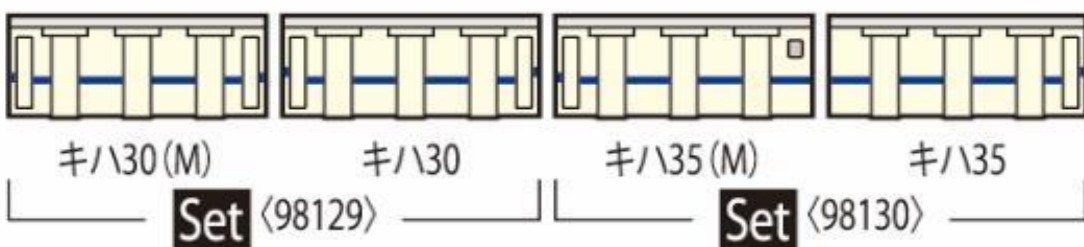
＜共通＞

- ・ハイグレード(HG)仕様
- ・それぞれのセットに0番代と500番代が入ったセット構成
- ・角形ベンチレーターを装備した寒地向けの各500番代を屋根新規で再現
- ・前面の補強板は各0番代は無し、各500番代は有り(青色の補強板付属でユーザー取付)で作り分けて補強板有無で異なる青色部分塗分け位置を再現(購入時、各500番代の運転台側はクリーム色1色状態となります)
- ・補強板がある0番代、補強板が無い500番代を再現したい場合は屋根(キハ35形は下回りも)を互いに入れ替えることで再現可能
- ・ヘッドライトは新規の内側に段がある2灯式シールドビームで再現
- ・テールライトは、実車で元からあるいは改造によって外ハメ式になった姿を前面新規で再現
- ・運転台側排障器は台車一体型、ジャンパホースは別パーツ付属で再現

- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付き
- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は電球色LEDによる点灯
- ・前面表示部はカラー行先表示部採用により白色に近い色で点灯
- ・前面表示部は交換式で印刷済みパーツ「茅ヶ崎-橋本」を装着
- ・前面表示部は交換用「茅ヶ崎-海老名・茅ヶ崎-寒川・橋本-厚木・橋本-原当麻-臨時-普通(白地)」印刷済み別パーツを付属
- ・車番・JRマーク・ドアボタンは選択式で転写シート付属
- ・フライホイール付動力、新集電システム、黒色車輪採用
- ・M-13モーター採用
- ・TNカプラー(SP)標準装備
- ＜98129＞について
- ・両運転台車キハ30形の0番代(M)と500番代が入ったセット
- ＜98130＞について
- ・片運転台車キハ35形の0番代(M)と500番代が入ったセット
- ・500番代の床下は0番代より大型の水タンクで再現

■セット内容・編成例

●相模線(1986年頃)



●八高線(1991年頃)



※この編成の場合、＜98130＞セットのキハ35形(M)は使用しません。

＜別売りオプション＞ 室内灯:＜0733＞白色

●並べて楽しめる商品●



キハ35系首都圏色各種

品番	98129	品名	国鉄 キハ30 0・500形ディーゼルカー(相模線色)セット	セット両数	2両
発売月	2024年1月	JANコード	4543736981299	予価	¥14,300 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	182×131×33mm	パッケージ形態	紙箱
品番	98130	品名	国鉄 キハ35 0・500形ディーゼルカー(相模線色)セット	セット両数	2両
発売月	2024年1月	JANコード	4543736981305	予価	¥12,100 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	182×131×33mm	パッケージ形態	紙箱

JR東日本商品化許諾済